

豊里



大阪の人気寄席豊里に届ける

上方落語を聴く会「出前田辺寄席」(豊里コミュニティ推進協議会主催)は2月18日、豊里公民館で開かれ、落語家たちの見事な話芸に、会場内は終始笑いに包まれました。上方落語会は、昨年につき2度目の開催。桂文太師匠いる大阪の地域寄席「田辺寄席」5人の落語家等が高座に上がり、小唄や三味線、太鼓など鳴り物演奏などを披露しました。来場者は軽妙な上方落語に、笑いをこらえきれませんでした。

世代つなぐレクリエーション

「第21回吉田地区世代間交流レクリエーション大会」(吉田コミュニティ運営協議会主催)は2月18日、善王寺コミュニティセンターで開かれ、子どもから高齢者まで約300人が参加し、スポーツを楽しみました。大会は、軽スポーツを通して、地域の幅広い年齢層と一緒に競技することで、親睦を深めることが目的。参加者は、レインボー玉入れやデカバン競争などで、冬季の運動不足を解消しながら楽しい時間を過ごしました。



米山

迫



地域一体でモデル地区に学ぶ

「子ども会育成フォーラム」(青少年のための登米市民会議迫支部、迫町子ども会育成連絡協議会共催)は2月10日、迫公民館で開かれ、約60人が参加しました。フォーラムは、大網西愛児会やジュニアリーダーなど4団体の代表がパネリストになり、活動を報告。助言者5人が加わり、「地域コミュニティと子ども会活動」をテーマに、子どもたちの健全育成に必要なことについて、意見を交わしました。

石越



健全育成の共通理解を深める

青少年のための登米市民会議石越支部と石越町子ども会育成協議会の「合同会員研修会」は1月27日、石越公民館で開かれ、団体関係者、学校関係者や地区住民約60人が青少年の健全育成に理解を深めました。研修会は、石巻専修大学人間学部教授の木村民男氏を講師に迎え、青少年が健全に育つ住みよいまちづくりについて講演。参加者らは、グループワーク等を通じて子どもたちのいじめや不登校の予防策を学びました。

みやぎの明治村全体が画廊に

「絵のまち巡り」(みやぎ北上商工会青年部登米支部主催)は2月1日から28日まで開かれ、町内53カ所の商店や事業所の店内に絵画や切り絵が展示されました。絵のまち巡りは、地域住民から親しまれる店づくりを目指して実施。地元の保育園児や小中高生などが制作した、絵画や切り絵など約370点が展示されました。みやぎの明治村全体が画廊となり、地域住民や観光客も作品を見ながら、まち巡りを楽しみました。



登米

皆と音楽で楽しくつながろう

「もっこりまちの音楽会」(南方公民館主催)は2月4日、南方農村環境改善センターで開かれ、地元の音楽愛好家が集まり、日ごろの練習の成果を披露しました。音楽会は、公民館の「特色ある町の事業」の一環で開催。南方小学校(大嶽太鼓)、南方中学校吹奏楽部、あやめ園、もっこり合唱隊、オカリーナの会、ニューシャーマン楽団、スィング、大正琴あやめの会と、地元でおなじみの8団体の歌と演奏で盛大に盛り上がりました。



南方

東和



伝統の奇祭水掛け火伏せ願う

国指定重要無形民俗文化財「米川の水かぶり」は2月7日、東和町米川地内で開かれ、すすを顔に塗り付け、わら装束を身に着けた男衆23人が、大慈寺境内の秋葉大権現で祈願後、家々の屋根に水を掛けて火伏せをしました。米川の水かぶりは、800年以上続くと言われ、毎年2月の初午の日に催される行事。現在、秋田県の「男鹿のナマハゲ」など9件の来訪神行事と共に、ユネスコの無形文化遺産登録を目指し活動しています。

津山



家族への感謝の思いを届ける

「明るい家庭づくり作文コンクール表彰式」(青少年のための登米市民会議津山支部主催)は2月22日、津山総合支所で行われました。表彰式は、最優秀賞を受賞した小中学生が、家族への思いを素直に表現した作文を朗読。表彰式後の研修会では、情報セキュリティに精通している盛証貴氏が、ネット犯罪の被害の実態について講演しました。出席者らは、犯罪に巻き込まれないための対策を学びました。

指で描くライオンは優しいね

「徳治昭童画展」(中田生涯学習センター主催)は1月31日から2月4日まで、中田生涯学習センターで開かれ、600を超える来場者が会場に足を運びました。童画展では、ワークショップ「指でらいおんサンを描こう」も開催。当日は、幼児から大人まで30人が参加し、指でライオンを描きました。柔らかいタッチで温かみのある作品が出来上がり、子どもたちは「指が痛くなって、手も汚れたけど、とても楽しかった」と目を輝かせていました。



中田